

## 人と自然にやさしい撥水調湿和紙壁紙を開発

天然素材のゼオライト・カルシウムなどを漉き込んだ和紙を特殊加工し、水を通さず空気を通し、汚れを付きにくく、人に優しくを実現した。

### 本業の動向について

建築内装材の販売を主要業とする。

既存の内装材は競争が激しく、多くの業界で展開されていることと同じく商品の低価格化が進んでいる。販売額で見ると若干減少傾向だが、新しく開発した製品の売り上げで前年レベルをクリアしている。

### 公設研究機関との連携事業について

#### 連携先公設研究機関の名称

福井県工業技術センター

#### 所在地

福井県福井市川合鷲塚町 61 字北稲田 10

#### 連携内容

撥水調湿和紙壁紙の開発。

#### 連携した動機やきっかけ

福井県工業技術センターが、ゼオライト系の高性能粉体を開発して特許を取得したことを知り、壁紙に利用して商品化をしたい旨、提案させていただいたのが始まり。

#### 連携の効果

計画性が高く期日管理が厳しいので苦しいこともあったが、結果的には仕事の効率を上げることに繋がった。また、技術だけでなく全ての面で支援が手厚かったので成功したと感謝している。

#### 連携して最も効果のあったこと

データ収集を目的とした実証実験を空室になっている県営住宅を借り上げ、試作品を壁一面に張って行った。そのような時にも公的機関の名前は有効に働いていると思う。

また、立案から進捗の期日管理など学ぶ点が多く、今後に役立てることができ収穫となった。開発面では着手当時にイメージしたとおりの商品が期日内に完成し、今までにない物を作り上げられ満足している。

#### 連携して最も困難だったこと

中小企業にとっては、研究や開発に必要な資金を継続して確保していくことは大変な努力と困難を伴うことを痛感した。

#### 連携するメリット・デメリットについて

メリットとしては研究設備や技術・人に関して大変大きな力を貸していただいた。細かな研究結果がデータとして出されることや確かな研究を行うことで、県の補助金対象にも認定されたことにより資金的にも助かった。

デメリットとしては書類の作成量が多く、不慣れな作業に追われ時間と労力を相当量費やす結果となり困惑した。

#### 連携に際しての注意、アドバイスなど

本業が安定していることが大前提だが、公の機関と一緒に研究開発を出来るチャンスが与えられるならトライするべきだと考えている。

何もしないのが最大のデメリットと考える。

### 公設研究機関との連携で行政に望む支援

今回の開発は『中小企業・ベンチャー挑戦支援事業のうち事業化支援事業に係る助成金のうち新技術に関する研究開発に係るもの』として認定され補助金を受けることが出来たので大変助かった。物の研究・開発には大変な時間と労力を要するので、可能ならば 5 年間支援をしてもらえるような長期支援策があると更に助かる。

#### 会社概要

設立: 1949 年 9 月(昭和 24 年 9 月)

資本金: 1,000 万円

従業員数: 40 名

URL: <http://www.tamagami.jp/>